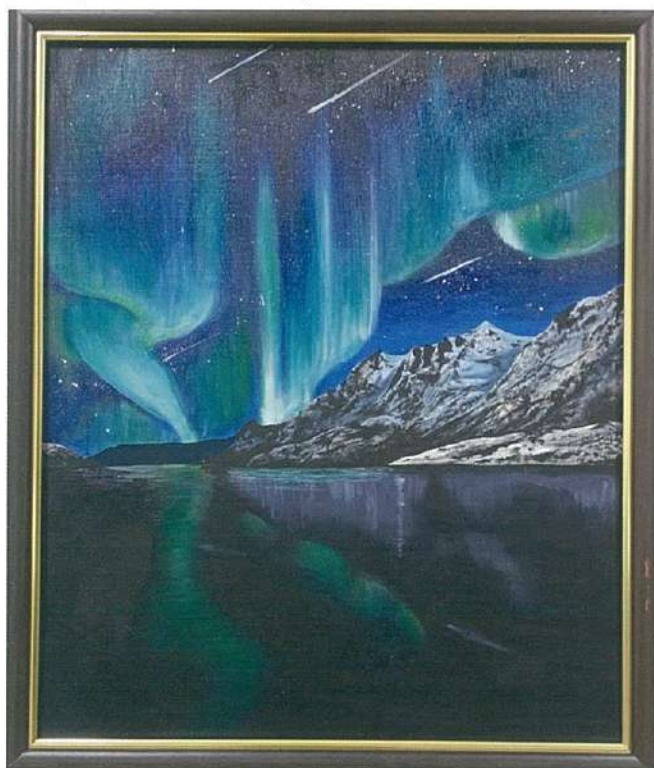


桜 真

NO.49

2020(令和2)年2月21日発行
岩瀬日本大学高等学校
<http://www.tng.ac.jp/iwase/>
父母と教師の会
〒309-1453
茨城県桜川市友部1739
TEL 0296-75-2242
FAX 0296-75-4905



茨城県高等学校総合文化祭美術の部
入選作品

「オーロラのある景色」

1年3組 諸井 楓

この絵は、オーロラをモチーフにした油彩です。油彩は高校に入学してから美術の授業で初めて描きました。油彩は水彩画と違って濃い塗り方ができ、厚みが出るところに魅力を感じました。授業では静物を描いたのですが、今回はオーロラが消えていく様子や、水面に映っている感じを出すのが一番の難関でした。今回、入選を受けて全国高等学校総合文化祭に出場できることになり、人物画を制作しています。前回よりも良い作品を制作し、自信を持って総文祭に出品できるようにしたいです。

第6回中学生・高校生
フォトコンテスト佳作
(藤原ナチュラルヒストリー振興財団主催)

「自慢の翼」

1年2組 木村臣之介



今回、初めてフォトコンテストに応募して佳作をいただきました。応募の理由は、僕で4代目となる家業の写真館を継ごうと思っているからです。初めて自分のカメラを買ってもらい、早速近くの田んぼで数日かけて何百枚もシャッターを押しました。その中でもいいものは数枚しかなく、写真の難しさを感じました。一番気に入ったものを応募しましたが、まさか入賞するとは思いませんでした。僕の目標とする祖父は、文部科学大臣賞を始めとするたくさんの賞をとっており、今回の入賞で自分もやればできるという自信を得ることができました。将来は大学に進学して専門的な技術を学び、祖父を超える写真家になりたいです。

NU祭 17年連続入賞!

国立・特進コース1年5組担任 長田光司

今年度のNU祭は11月30日(土)、日本学生会館(東京市ヶ谷)で行われ、本校の桜蔭祭におけるクラス企画(展示部門)で優勝した国立・特進コース1年5組が代表として参加しました。NU祭は、展示の様子を2分間の映像にまとめて発表し、出席者(大学の先生や職員の方々・学部生・付属高校生)の投票で順位が決まるので、6月の桜蔭祭終了後から、ポイントを押さえて2分間にまとめること、投票してもらえないようなインパクトのある映像にすることを心がけながら準備を進めました。



撮影は秋休み(10月)に行い、今回は映画「カメラを止めるな!」で注目されたワンカット動画にチャレンジし、展示物の紹介を交えながら2分間編集なしの一発撮りを行いました。動きが複雑で、練習にかなりの時間を費やしましたが、生徒たちの予想を遥かに越える頑張りで無事に撮影を終えることができました。当日は代表生徒のみの参加となりましたが、作品紹介のスピーチも立派で、映像も好評を博し、入賞することができました。



間もなく2年生となるクラスの生徒たち。クラスの絆で掴んだこの成果を学習や生活、そして将来につなげることができるとき、いただいた賞はさらに輝きを増すのではないかと思います。



最後にりましたが、御協力いただき、見守っていただいた保護者の皆様、本当にありがとうございました。うございました。



ハワイ英語研修を通して

1年4組 鈴木乃愛

私が今回ハワイ英語研修に参加した理由は、海外での生活や文化を学び、現地の人と交流してみたいと思ったからです。実際に2週間生活してみると、英会話や、買い物をするときにお金の単位が違ったり、普段の食事も違ったりと、慣れないことばかりで大変なこともたくさんありました。ですが、現地の方が優しく教えてくださり、友達とも協力し合うことができ、私にとって毎日がとても充実していました。



ケンブリッジ研修を終えて

2年6組 篠原夏菜

私はこの研修を通して、多くのことを学ぶことができました。毎日の授業では、ネイティブの発音や英国の文化などを学びました。英語を話すことが苦手な私は苦労しましたが、自分を成長させる貴重な経験でした。また私はこの研修で、最高の仲間と出会うことができました。18日間一緒に生活をし、一緒に学んだ仲間は、学年や性別の隔たりのない一生の友達です。この研修での経験は、私にとって宝物になりました。貴重な経験をさせてくれた両親に感謝し、さらに英語を学びたいです。



将来につながる体験

1年5組 上野未夢

今年の蓼科宿泊学習は、台風19号長野県被災の影響で行程の変更がありました。多くの私たちの支えをいただいで無事出発することができ、貴重な体験をすることができました。

当時私たちは文理選択の最終決定前だったので、特に私は講演会が良かったと思います。文系・理系どちらを選ぶ人にとっても意味のある奥深い講演のおかげで、私の文理選択に迷いが一切なくなりました。それ以外にも、企業訪問や、地域で大切にされている文化や伝統に触れることができ、将来に向けて自分の視野を広げる機会となりました。

オーストラリア修学旅行

コアラの会会長
2年5組 神保千遥

10月14日(月)から泊5日。学年全員で、オーストラリアのケアンズに修学旅行に行きました。私が一番の印象に残った場所はグリーン島です。世界遺産のグレートバリアリーフで人気のスポットを、自分の体全身で触れることができ感動しました。次に私の体験で忘れられないことは、フアームステイです。これらの貴重な体験は心のアルバムに残っています。一人ひとりが目的意識を持って行動したことで、新たに多くのことを学びました。最後に、JTBの方々、先生方、保護者の皆様ありがとうございました。

体育祭

体育祭実行委員長
3年3組 兼村聖矢

今年度の体育祭のスローガンは「友よ熱き青春の風に乗れ」で、天候に恵まれずあいにくの雨でしたが、綱引きと大縄飛びと目隠しリレーを体育館で開催しました。結果は、総合優勝2年2組、準優勝1年4組と1年5組でした。どのクラスも、絆が深まり大変盛り上がりしました。

このように予定が急遽変更になりましたが、体育祭が成功できたのは、先生方や実行委員、選手の皆さんが柔軟に対応してくれたおかげです。ありがとうございました。

桜瑛祭記念講演会

桜瑛祭実行委員
2年1組 針谷真生

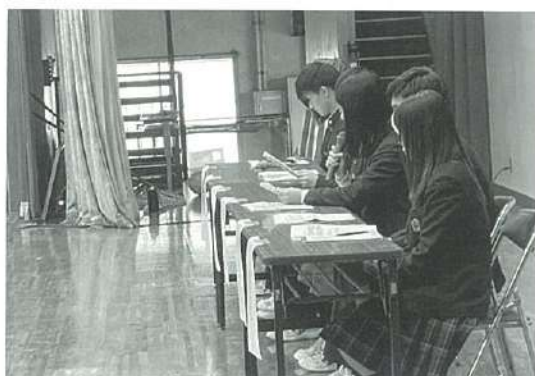
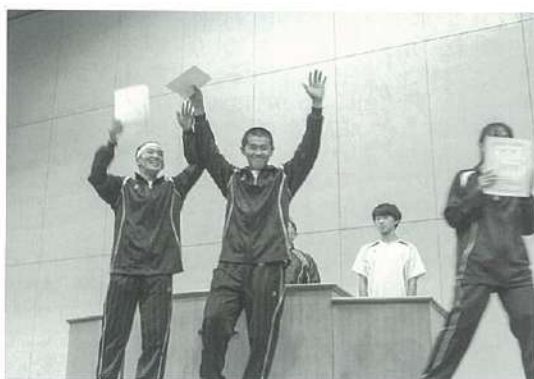
桜瑛祭記念講演会でウィルチェアアスレティックの官野一彦さんにお話をお聴きすることができました。自分は今まで障害を持つていて人が困っていても声をかけることができませんでした。障害のある人が困っていた一言でも良いから声をかけてあげることが大切だと思っしやっていたので、自分も行動におこせるようにしていきたいです。

健康な体で生活できることがとても幸せなことだということを改めて実感しました。障害のある人への対応を考えさせられるとても良い講演でした。

生徒総会

生徒会長
2年4組 堀中ひな

令和元年12月24日に、生徒総会が行われました。事前に全校生徒から総会で取り上げる議題についてのアンケートを実施し、それをもとに生徒会役員で実現可能なものについて話し合いました。今回はその中から3つの議題を選び生徒総会で話し合いを持ちました。総会では、生徒の皆さんが熱心に参加してくれたおかげで、スムーズに話し合いを進めることができました。今後さらに皆さんから寄せられた意見を吟味し、これからの学校生活に反映させていきたいと思っております。



「運命を引き受ける！」



校長
齊藤 克朗

草木もようやく長い冬の眠りから覚め生命の息吹を感じられる季節となりました。「父母と教師の会」の皆様方には日頃から本校の教育活動につきまして深いご理解とともに多大なるご支援を賜っておりますことに厚く御礼を申し上げます。

そして生徒の皆さんは、卒業や進学そして進級へと新たな環境への準備に胸躍らせていることと思います。人は新たな世界に踏み出だそうとしたとき、大きな夢と希望を抱き、人生を素晴らしいものになりたいと願い、そのためには何が必要でどうすれば良いかを考えます。月並みですが「なりたい！やってみたい！」という自己目標の設定が重要で、それを叶える強い信念と綿密な計画とそれを押し進める実行力と少々の困難には屈しない辛抱が必要になってきます。また事の成り行きや成果と取り組み方への満足度はそれぞれの「自己力」によって変わってきます。

人の一生を「人生山河」と例える人がいますが、人生に好不調は常に付いて回ります。どんな状況になろうともその全てを「運命」と引き受け、最善を尽くして前に進むしかないので。大河の源が山河の一滴の水であるがごとく人生の成功への根源も必ず日常に存在するのです。その運命はあたかも決まっているように考えられがちですが、私は必ずしもそうではなく、それぞれの自己力によって選び作り上げていくものと考えています。「運命」には二通りあり、一つは生まれつきに個々に与えられている運命で、どの国のどの時代に存在しどの両親から生まれ、どのような性格なのかなど、自分ではどうしようもない定めというもの

です。もう一つは自分で支配する運命で、物事を前に進める際に自分の生き方や努力によって変えられるものです。このように全く異なる性格の運命ですが、何か事を成そうとしたとき必ずこの運命というものに左右されます。ですから逃れることのできない偶然の運命を自分で作り上げる運命に変えていくことが大事なのです。いわゆる「偶然を必然に変える。」これこそが充実した人生に繋がっていくのです。さらにこの運命を楽しいものにするには人としての喜びを追求していくことです。人生において最高の喜びを感じる瞬間は「人にできるわけがない。」と言われたことをやってのけたときだそう。世の中の成功者を見ても誰しも他人に否定された経験が必ずあり、それをバネにして生きてきたのです。運命の受け止め方は人それぞれでしょうが、未来を作るためには行動を起さなければ何も生まれてはこないのです。そのことを心に止めおきながら毎日を送りたいものです。

加えて、最近の世の中には「結果が全て！」という風潮があります。物事への取り組みも結果を先に考えて慎重になる傾向があります。しかし大業は挑戦からしか生まれません。あらゆる困難も自分を成長させてくれる試練と受け止め頑張り続けなければならぬのです。何故なら、自分にそぐわないと思う嫌な運命からいくら逃げても、次にまた新たな運命が待ち受けているからです。

この岩瀬日大高校において青春の一時を共有した生徒諸君、これからの時代の変化は益々大きくなっていくと思われ。巣立ちの時を迎えた3年生には、新たな世界で出会うであろう全ての苦難も自己成長の糧にして自分の人生を作り上げて欲しいと思います。そして現役生はこの高校生活を未来に繋げなければなりません。進路を決めるということは人生を決めるに等しいと考えます。そのことを念頭に置きながら運命との闘いを楽しんでください。諸君たち一人一人が、毎日を楽しみ活き活きと人生を歩んでくれることを望みます。

「令和」という時代を迎えて

国立・特進コース全学年主任

大塚友美子

令和元年を振り返り、今年も生徒とさまざまな思い出を作ることができうれしく感じています。学校生活で、行事を通し生徒・保護者の皆様・教職員が一つになり同じ時間・想いを共有できることは素晴らしいことです。国立・特進コースは1年生から3年生までが同じフロアで過ごし、時には学年を超えて助け合い、励まし合ったりして友情を深めることができます。

4月に新入生は、学習に対する姿勢を先輩の姿から学びます。6月の桜祭では、各クラス知恵を出し合い協力しながら、より良いものを作り上げようと努力しました。そして、この夏も大変な猛暑の中、蓼科サマースクール・校内サマースクールで学習成果を上げることができました。蓼科サマースクールでの1日10時間学習や校内サマースクール中の夕方6時までの自主学習等は生徒たちの大きな自信と達成感に繋がったことでしょう。

秋から冬にかけて、3年生が大学受験期を迎えました。9月の日本大学基礎学力到達度テスト、その後毎月行われる模試は大変だったことでしょう。

11月の進路講演会が始まる前、全員が静かに黙々と学習をしている姿を見た講演者の方から、「素晴らしい取り組みですね。」とお褒めの言葉を頂きました。これは、日頃からスキマ時間を大切にしている姿勢が表れたものだと思います。12月のセンター試験激励会では、試験まで1ヶ月を迎えた3年生を先生方と1、2年生の生徒たちが一緒に激励しました。会の中で3年生の代表生徒が「先輩から受け継いだ、受験に一九となつて挑む気持ちを先輩へと繋げていきたい。」と誓いの言葉を述べました。3年生の希望進路実現を心から祈ります。また、保護者の皆様には本校へのご理解とご協力に対し深く感謝申し上げます。

「一年を振り返って」

日大・総進コース第1学年主任

井上 隆一

保護者の皆さまには、一年間ご協力を賜りまして、大変ありがとうございました。この1年を振り返り、生徒たちの印象と学年に対する思いを少しだけ書かせていただきます。

1年生の印象は、明るく素直で、しっかりと話ができる生徒が多いことです。また、ボランティア精神にも富み、夏休み期間中の学びの広場には25名、秋の茨城国体ボランティアには49名の生徒が参加しました。さらに、6月の文化祭では、5組が1位、4組が3位、2組が4位と上位を1年生が占める結果となり、10月の体育祭では4組と5組が同率で2位入賞を果たすなど、行事に一生懸命に取り組む姿が印象的でした。そして、行事を終える度にクラスの輪が結束し、笑顔が増えていったように感じます。あとは、もう少し学習する習慣を持つてくれたら言うことないのですが…

さて、今、生徒たちは、教育内容や大学入試が大きく「変化」をしている改革の真っただ中にいます。また、将来は、予測困難なほど「変化」の激しい社会で仕事に就くことになると言われていきます。その「変化」に飲み込まれないために、学校では、外部イベントへの参加を促したり、企業や自治体を訪問したり、外部講師をお招きしての講演を多く取り入れたり、学校の外とのつながりを意識してきました。文科省の言う3つの資質・能力を身につけてもらいたいのは当然ですが、やはり世の中で起こっていることを自分事として捉えて、できるだけ社会と繋がる機会を持ったうえで社会に出て欲しいと考えているからです。まだまだ、生徒たちも私たち学校も発展途上ですが、この地方にある小さな高校から、世界で活躍できる人物が出てくることを本気で考えて、教育活動をしています。これからどうぞよろしく願います。

「ONE TEAM」

日大・総進コース第2学年主任

木川 修一

2019ラグビーW杯では、日本中が興奮と感動の渦に巻き込まれました。そして快進撃を続けた日本代表チームが用いたONE TEAMという言葉は流行語大賞にも選ばれました。

W杯と時期を同じくして高校生活で最大のイベントであるオーストラリアへの修学旅行がありました。修学旅行では甚大な被害をもたらした台風19号の影響で出発も懸念されましたが、2学年総勢174名、誰一人欠けることなく参加でき、無事に出発することができたことは本当に素晴らしいことです。

ファームステイでは片言の英語で意思の疎通を図り、心を通わせました。多くの生徒が別れを惜しみ、第二の故郷となぶたことでしょう。グリーン島では心が洗われるほど澄みきった海を体感し、壮大な世界遺産に圧倒されました。誰もが一生の思い出となる素晴らしい経験になったはずですが、この貴重な経験が琴線に触れ、子どもたちはさらに成長したように思われます。

各クラスを見るとそれぞれのカラーでまさにONE TEAMとして日々素晴らしいクラスに成長している様子が実感できます。もうすぐ2学年も終わろうとしています。次年度はいよいよ高校生活の集大成となる受験を迎えます。一人ひとりがより良い進路選択ができることを切に願います。

この一年間が無事に終わることができるとも毎日ご子女のために尽力されている保護者のみなさま、そして毎日親身になって子どもたちに接している担任の先生方、学年を支えてくださる先生方のおかげだと痛感しています。

子どもたち、ご家庭、学校が一体となり2学年がONE TEAMとして卒業を迎えることを祈念いたします。

「3年間を振り返って」

日大・総進コース第3学年主任

三代 哲

3年前の4月、桜の花が舞い散る中、新入生を迎えた入学式から、あつという間に時間が経ち、その生徒たちもみなそれぞれの目標を見つけ、新たな道へ巣立つようとしています。

初めて学年主任という大役を任せられ、迎えた入学式に挨拶の場をいただき、入学したみなさんに「3年間で夢を見つけてほしい」というお願いをしました。そして、私自身もこの3年間みなさんの「夢を見つける」サポートに力を注いできたつもりです。

1年次から、多くの大学の様子を知れた「夢ナビ」や卒業生から各学部の説明や就職先の様子を聞いた「卒業生講演会」、そして、企業訪問やさまざまな場所を見学できた「宿泊学習」。2年次にも英語でコミュニケーションを図る機会が得られた「修学旅行」。3年次には日本大学の各学部から説明を聞くことができました「学部説明会」。また、直接進路には関連しないものではありますが「桜球祭」・「体育祭」。

このさまざまな行事を通し、一人ひとりの生徒が自分を見つめ、周囲の中で自身の役割に気づき、行動に移すことができるように成長してくれました。そして、そういったことをきっかけに、自分の適性を感じ、その中から進路の方向性を見出し、努力を重ね、希望進路への進学を決めてくれました。

このように生徒の成長の機会に携わることができるといえるのは教員冥利に尽きるものです。学年主任として、171名の生徒と関わることができ、私自身も成長することができた3年間でした。

3年生のみなさん 卒業おめでとう。
そして、3年間ありがとうございました。

1年間を振り返って



父母と教師の会
会長 早瀬 純子

東風が吹き、甘酸っぱい梅の香りが春を知らせる季節となりました。

保護者の皆様には日頃より「父母と教師の会」の活動にご協力を頂き誠にありがとうございます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

2017年度の総会で会長職を仰せつかったときは、私などに務まるはずがないと非常に悩みもしました。しかしこれまでの三年間を振り返ってみますと、校長先生をはじめ、多くの方と出会い、多くの方の善意に触れることができ、皆様にご指導いただき、導かれ、会長として父母と教師の会活動に携われたことは、私自身貴重な経験ができ、成長できたこと本当に幸いだったと感じています。

また、教師と生徒、保護者（支部）の「絆」が強くなる「桜瑛祭」では、毎年その年のオリジナリティに富む、個性豊かなテーマが表現され、それぞれが目的を持ち一致団結して盛り上

がり、さらに「絆」が強まる本校の特徴であり、その一助になったことを誇りに思います。

3年生はまもなく本校を巣立っていきませんが、ここで学んだこと、培ったことを、心に置き自分の礎とし、これから向かうそれぞれの道を歩んでください。そして、一人ひとり真剣に対応して下さった先生方、保護者への感謝の気持ちも忘れずいてください。

また、在校生のみならず先人たちが培ってきたことを引き継ぎ、自己実現の目標達成のため、努力を惜しまず充実した高

校生活を過ごしてください。生徒たちの健やかな成長の助けとなるような活動を、父母と教師の会では今後も続けていきたいと思っておりますので、保護者の皆様の変わらぬご協力をお願いいたします。

今後とも岩瀬日本大学高等学校が地域に愛され、輝かしい架け橋を昇り続けられますようお祈りいたします。

支部活動を振り返って

桜川支部
支部長 青木 匡尚

子どもの成長を見守ることができたらと思いい、桜川支部の役員になりましたが、早いもので3年が経とうとしています。特に支部長の任を受けてからのこの一年は充実した時間を過ごすことができました。

支えていただいた桜川支部の役員・会員の皆様、お力添えいただいた先生方に深く感謝申し上げます。

また、桜川支部の事業にも積極的に参加いただきまして、重ねて御礼申し上げます。

思い出深い桜瑛祭の際には、模擬店を成功させようと、準備から当日まで、意見を出し合いやり遂げられたことは貴重な体験となりました。改めて、良き仲間にも恵まれたのだと実感しました。

さらに、会員同士が交流できたり、生徒たちの普段の様子を見ることができたりと、とても有意義な時間でした。

役員を務めさせていただき、子どもだけではなく、私自身も成長させていただきました。

最後に、岩瀬日大高校の益々のご発展と会員の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

母校に関われたことに感謝

下館支部
支部長 飯島 望

娘が岩瀬日大に入学し三年が経過しようとしています。

本校は私の母校でもあり、支部長という大役をお引き受けする際はとても感慨深く、少し恩返しができると思えました。

活動の中で、私がお世話になった多くの先生とお会いし、たくさんのお話をさせていただきました。子どもたちに対する情熱と真剣な関わり方はあの時と変わりませんでした。

文化祭の模擬店では、じゃがバターを販売しましたが、生徒たちは皆、礼儀正しくはきはき受け答えをしていて、その姿に目を覚めるものがありました。

私も在学中大好きな学校でしたが、その時よりもっと素晴らしい学校になっていると実感しました。それと同時に、母校に親として貢献させていただいたことをとてもありがたく感じています。

このように活動できたのは、父母と教師の会会員の皆様のお力添えによるものです。本当にありがとうございます。

娘はこの春巣立ちますが、今後も親子で岩瀬日大を応援させていただきます。

支部活動を振り返って

県西支部
支部長 矢口 健治

子どもが入学してから、早いもので3年が経とうとしています。その間、私自身も県西支部の役員として活動をさせていただきました。2回目の支部長ということで、全体の流れは分かっていたのですが、いざ活動をしてみると戸惑うことばかりでした。その中、ご協力いただいた支部役員と会員の皆様、そして先生方のお力添えに本当に感謝申し上げます。

支部活動として最も印象深いのは桜瑛祭です。県西支部では毎年焼きそばを焼いて販売しています。場所にも恵まれ、今年も1060食を完売しました。桜瑛祭を通して保護者同士の団結力を改めて感じました。

また、8月末には地区懇談会を開催しました。先生方を含め54名の参加をいただきました。学校生活、部活動や進路相談等、熱心な話し合いが行われました。このような保護者と先生方との交流はとても有意義で貴重な時間であると思えました。

最後に、会員の皆様ならびに岩瀬日大高校の益々のご活躍とご発展をお祈り申し上げます。

感謝！感謝！感謝！

ときわ支部
支部長 中泉 栄一

野球と大学進学のと立を目指して、遠路遙々、岩瀬日大高校に入学した息子に、「知り合いがいないんだから、自分から積極的に人間関係を作れよ」とアトバイスをしました。その手前、親として手本を示さなければならぬと思い、自ら手を挙げて役員をやらせていただきました。

本支部は県北から県南まで、常磐線沿線の広いエリアを範囲としており、保護者同士の縦のつながりが弱いため、役員集めには苦勞しました。しかし、少数精鋭の優秀でやる気のある支部役員の皆様と、頼りになる支部担当の先生方にフォローしていただいて、何とか1年間無事に支部長を務めることができました。

桜蔭祭では力を合わせて2日間で4200本の焼き鳥を焼いて完売したこと、黄門祭りの校外指導とその後の懇親会など、思い出がいっぱいです。

お世話になった皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げますと共に、岩瀬日大高校と会員の皆様の益々のご発展とご活躍をご祈念申し上げます。

支部活動を振り返って

北つくば支部
支部長 稲見 英章

息子が岩日生になり、3年前を思い返すと不安で一杯でした。今は将来に向け頑張ろうとする姿を見ると、遅くも思え、先生方や友達に支えられ貴重な時間を過ごし、卒業を迎えられることに深く感謝しています。

私の支部活動は、先輩役員に誘って頂きスタートしました。1年目は何も分からず、先輩役員の方にご指導頂きながら、あつという間に過ぎ去りました。2年目は来年を見据えて活動していきましました。そして、いよいよ支部長としての集大成の活動が始まりました。

今、支部活動を振り返ると、人との繋がりが「縁」を強く感じました。それを一番強く感じたのは、桜蔭祭で模擬店を出店した時でした。先生方や役員の方のご協力と用意したものを完売することができました。役員をしていなければ、このような達成感や人との繋がりを感ずることができなかつたと思いません。支部活動は私の財産となりました。感謝の言葉しかありません。

本当にお世話になり、ありがとうございます。

「支部活動を振り返って」

栃木支部
支部長 野澤 香織

岩日での3年間も間もなく終わろうとしています。入学当初の親子共々での戸惑いも懐かし、初めての高校生活や付属高校としての利を生かした進路・進学の情報交換ができればと引き受けた支部役員でしたが、先生方やたくさんの父母の方々とかかわりながら、楽しく満足のいく3年間を送ることができました。ありがとうございます。

栃木支部は年3回の懇親会を開催し、先生方を囲んで父母の方々との親睦を深めています。毎回大勢の参加をいただいて役員冥利に尽きる思いで一杯でした。そんな中での役員活動は、SNS等の活用で負担が軽減され、たくさんの情報共有を適時行うことができるなど、変化してまいりました。懇親会時に支部担当の先生が準備下さる学校生活のビデオも参加された皆さんとの共有が可能となり、かけがえのない宝物となっています。

これからも時代にあつた、誰もが楽しめる支部活動となることを期待しながら、岩瀬日大高校の益々のご活躍を祈念いたしております。

成人教育研修会報告

成人教育委員長 鈴木 衛

11月30日、氷点下2度を記録した早朝の岩瀬日大に参集し、教職員3名と保護者26名にて、令和元年度の父母と教師の会・成人教育委員会の研修視察を実施いたしました。

まず、創立130年を迎える

日大のルーツでもある法学部の施設を見学しました。ここは、国内最難関の国家資格である司法試験でコンスタントに2桁の合格者を輩出している実績のある学部です。図書館の蔵書数等においても国内有数で、あらためて日大のポテンシャルの一端

を垣間見ることができました。ランチは築地の一角で、海鮮が美味でした。また、場外については多くのインバウンドでこつた返しており、ワールドワイド化した築地の食文化の求心力が誇らしく感じました。

また、豊洲のチームラボ・プラネッツ東京については、幻想的な映像美や演出にただただ圧倒されました。そして、その企画力・発想力に加えて具現化する行動力とそれをお金に換えるビジネス力に感動すら覚えました。それらを考えると自身の日常業務においても、まだまだやれることや出来る事が沢山あることに気づかされました。総じて、貴重な非日常を体感する一日となりました。

最後に、縁あつてそれぞれの子弟が同時期に同じ学び舎で過ごす偶然等により、今回の和やかで充実した研修視察となりました。この研修を共に企画してくれた事務局と参加してくれたすべての保護者に感謝して、今回のまとめにしたいと思います。ありがとうございます。



	種別・出場者
卓球部	全国高等学校総合体育大会卓球競技大会 【男子シングルス】 2回戦出場 川内谷風美(3-2) 2回戦出場 鈴木皓貴(3-3) 【男子ダブルス】 出場 小山嵐士(3-2) 染谷悠寿(2-3) 茨城県高校卓球選手権大会 ジュニアの部茨城県予選会(シングルス) 【男子シングルス】第5位 鍋島 典(1-3) 茨城県高校卓球選手権大会 ジュニアの部茨城県予選会(ダブルス) 【男子ダブルス】 第2位 染谷悠寿(2-3) 鍋島 典(1-3) 茨城県高校卓球新人(団体)戦大会 【男子団体】 第2位 染谷悠寿(2-3) 染谷海都(2-3) 酒巻壮多(2-3) 西村奏輝(2-3) 中尾 壮(1-1) 鍋島 典(1-3) 知久龍太(1-4) 渡邊直翔(1-4) 【女子団体】 第3位 前野佳那子(2-1) 田中米実(2-1) 黒川玲衣(2-4) 根本愛衣(2-5) 東京選手権大会ジュニアの部茨城県予選会 【男子シングルス】優勝 鍋島 典(1-3) 関東高等学校選抜卓球大会 【男子団体】 第8位 染谷悠寿(2-3) 染谷海都(2-3) 酒巻壮多(2-3) 西村奏輝(2-3) 中尾 壮(1-1) 鍋島 典(1-3) 知久龍太(1-4) 渡邊直翔(1-4) ※全国高等学校選抜卓球大会に出場決定 天皇杯皇后杯全日本卓球選手権大会(ジュニアの部) 【男子シングルス】出場 鍋島 典(1-3)
	茨城県高等学校剣道勝ち抜き大会 【女子団体】 準優勝 神郡麻里(2-1) 菅原梨乃(2-5) 鬼島ななこ(2-5) 江田彩花(2-1) 齋藤夢叶(2-1) 関川空楽(1-2) 大窪妃真(1-3)
	全国高等学校剣道選抜大会茨城県予選 【男子団体】 ベスト8 小竹一輝(2-2) 木村公大(2-4) 平林亮太郎(2-1) 初見通太(2-2) 大竹涼馬(2-5) 倉金遼平(2-1) 三浦雅貴(1-4) 【女子団体】 準優勝 神郡麻里(2-1) 菅原梨乃(2-5) 鬼島ななこ(2-5) 江田彩花(2-1) 齋藤夢叶(2-1) 関川空楽(1-2) 大窪妃真(1-3) ※全国選抜大会出場決定
	全国高等学校総合体育大会第69回全国高等学校スキー大会 【男子回転・大回転】 出場 黒須悠太郎(1-3) ※県予選、回転・大回転ともに第1位 国民体育大会冬季大会スキー競技「とやま・なんと国体2020」 【少年男子回転】 出場 黒須悠太郎(1-3)
	茨城県高等学校総合文化祭美術展覧会 【絵画の部】 出品 諸井 楓(1-3)※2020 こうち総文出場決定 出品 高松 彩(1-4)

	種別・出場者
ソフトテニス部	茨城ハイスクールサマーカップ 優勝 田谷悠汰(2-5) 高岡優希(2-4) ベスト16 佐久間啓輔(1-1) 伊藤拓海(2-2) ベスト16 諸山智弥(2-5) 鈴木柊斗(2-3) 茨城県高等学校ソフトテニス新人大会 【男子団体】 ベスト8 田谷悠汰(2-5) 高岡優希(2-4) 佐久間啓輔(1-1) 伊藤拓海(2-2) 岡本雅裕(2-2) 山野遵利(2-5) 諸山智弥(2-5) 鈴木柊斗(2-3) 【男子個人】 ベスト8 田谷悠汰(2-5) 高岡優希(2-4) ベスト16 佐久間啓輔(1-1) 伊藤拓海(2-2) 【女子団体】 ベスト16 信瀬菜奈(1-3) 佐口蘭夢(2-5) 長澤果那(2-2) 増田奈夏(2-4) 奈良田侑子(1-1) 中野さくら(1-4) 栗崎由奈(1-3) 小田愛莉(1-4) 茨城県高等学校ソフトテニスインドア大会 【男子団体】 ベスト8 田谷悠汰(2-5) 高岡優希(2-4) 佐久間啓輔(1-1) 伊藤拓海(2-2) 岡本雅裕(2-2) 山野遵利(2-5) 桐原好多(2-5) 平間大輝(2-3)
	硬式野球部 全国高等学校野球選手権茨城大会 【1回戦】対 日立工業 8-14 秋季関東地区高等学校野球茨城県大会 【1回戦】対 竜ヶ崎一高 3-8
	女子硬式野球部 全国女子硬式野球ユース大会 ※全国高等学校連合・丹波の一員として出場 【1回戦】 全国高等学校連合丹波 対 花咲徳栄 0-3 田中藍奈(1-3) 谷島伶南(1-3)
	バドミントン部 新人バドミントン大会茨城県予選 【男子団体】 ベスト16 瀬尾匠史(2-6) 鈴木 亨(2-3) 関 祥吾(1-2) 木村巨之介(1-2) 小林直樹(1-3) 小林葵斗(1-4) 【男子ダブルス】 ベスト32 瀬尾匠史(2-6) 鈴木 亨(2-3) 【男子シングルス】ベスト32 鈴木 亨(2-3) 【女子シングルス】出場 平 れな(1-4)
ライフル射撃部 茨城県高等学校ライフル射撃競技新人大会 【男子BR】 第23位 齊藤直樹(2-6) 第24位 黒須大地(2-3) 第25位 五十嵐勝輝(2-6) 第33位 吉原慎一郎(1-1) 【女子BR】第14位 川野邊了己(2-4)	
水泳部 フィンスイミング短水路日本選手権 【男子25m Jヒ-フィニズの部】 第1位 稲葉涼馬(2-2) 【男子50m CMASt-フィニズの部】 第1位 稲葉涼馬(2-2) 【男子100m CMASt-フィニズの部】 第1位 稲葉涼馬(2-2) 【男子25m Jヒ-フィニズの部】 第2位 稲葉涼馬(2-2)	
メッセイア部 全国高等学校総合文化祭・2019さが総文 【新聞部門】 出場 猿山 祈(3-6) 佐藤志哉(3-6) 茨城県高等学校新聞コンクール 優秀賞 ※2020こうち総文出場決定	

私の高校時代 ⑳

教諭(国語科) 石塚 和之先生

■プロフィール

- 生年月日 昭和41年9月8日
- 出身地 茨城県筑西市
- 出身校 茨城県立下妻第一高等学校
- 最終学歴 専修大学文学部
- 好きな言葉 夢なき者に成功なし
- 趣味 野球観戦



私の高校時代は野球一色でした。高校を選択したのも野球が理由。当時描いていた夢の実現に向けて、夢中で過ごした時間でした。

目標は甲子園。そして夢はプロ野球選手。高校3年生の夏の大会が終わる日までずっと変わらない目標と夢でした。しかし、最後の試合に負けた瞬間、目標がなくなるとともに夢も消えていきました。甲子園にもいけない選手がプロになれるはずがない。同時に、「先生」になって、指導者として甲子園を目指そうという新たな夢が自然に芽生えていました。

私の高校の指導者は、「先生」ではありませんでした。別の仕事を営みながら、野球部の練習

にだけグラウンドを訪れる「監督」でした。当時の下妻一高は、甲子園まであと一歩というところまで来ている県内強豪校の一つに数えられていました。部員も50名を超えており、そんな中のレギュラー争いは大変です。みんな自分のことに必死です。私もその中の一人です。そして、本来チームが甲子園にくくために頑張らなくてはいけないのに、いつの間にか、自分が試合に出るために頑張るようになっていました。当然そうなるかと、まとまりとか盛り上がりとかは感じられなくなりました。そんな中レギュラーになっていった者の中には、授業中寝ていたり、自主練をやらなかったり、グラウンド整備や道具の手入れをやらなかったりする者が含まれていました。納得がいきません。「監督」は練習以外の姿を見ていないから、ただ結果を出した者をレギュラーにするんだ、「先生」ではないから普段の姿を知らないんだという思いがありました。

その後、紆余曲折あり、35年前の思いを追える現在になりました。結果的に第二の夢を叶えられた訳ですが、今思えば、高校時代夢を本気で追っていたから次の夢ができたのだと思います。また、お金で買えないものを追えるのも高校生からの学生時代。夢を本気で追う時間は、人生の宝物です。

今は当時の「監督」さんが大好きです。当時は、思い通りにならないことを人のせいにしていたんだと思います。分かってくれない、認めてもらえないのは自分ではなくて「監督」のせい。人のせいにしていて自分は成長しないですね。時間がかかりましたが大切なことを「監督」に教えていただいた高校時代でした。

勝利呼ぶ好救援



下妻一高 石塚 和之投手

同じ二年生の上野を好リリーフ、勝母の女神を完全に呼び込んだ。

好火消しの舞台は六回二死から。上野が2点を失い、一、三塁に走者を置いてたところで中堅からマウンドへ。この回こそ立ち上がり制球とスピードがもうひとつのところをつかれ、1点を取られたが、七回からは九回まで神水の左前打1本だけで水戸工打線を封じる快投ぶり。

「きょうは、制球力がもうひとつだったんで、直球を投げて球に變化球で勝負しました。1点もやらないつもりでいたんですが、まずは無難に抑えられました」とゲーム終了後、サインの祝福を受けながらホッとした表情。

下宿一宿の出場で、甲子園時代にはエースとして西蔵、選抜大会優勝の経験を持つ。

今年の夏の大会も背番号11をつけ、控え投手としてベンチ入り。マウンド経験も新チームの選手としては豊富だけに「リリーフは緊張するが、やりがいがあります。いつでも投げられます」と元氣なところをみせ、2回戦に臨まざるやっています。

ボランティア部 「BARAK」ドリーム・パス事業の 最終プレゼンテーション大会に入賞

顧問 柴 佳絵

この事業は、茨城県教育庁が、高校生の地域課題の解決に向けた取り組みを推進するもので、本校はつくば霞ヶ浦りんりんロードの活性に取り組みを發表し、審査員特別賞をいただきました。今回の企画は井坂彩夢、平れな、高松愛梨、中山萌香、福田みのり(1-4)の5名で参加しました。この入賞を励みに今後活動を行っていきます。



	種別・出場者	
文芸部	茨城県高等学校文芸部中央大会	
	【散文の部】 優良賞	緒方桃子(1-3)
	【俳句の部】 佳作	菅野友恵(2-2)
ボランティア部	サステナブルプラント国際会議2020横浜	
	出場	石島彩羽(1-2) 篠原彩花(1-2) 郷間沙藍(1-2) 宮田 萌(1-2)
愛好会	茨城県高等学校教育研究会英語部	
	The38th English Recitation Contest	入賞 趙 宇馨(2-6)
個人	税に関する作文	
	租税教育推進協議会会長賞	中山萌香(1-4)
	公益財団法人藤原チヨウヒスリ-振興財団	
	中学生・高校生7+1コンテスト佳作	木村巨之介(1-2)
	NUS祭【書道の部】	
	校友会特別賞	舟橋美玖(3-4) 錦野航平(1-4)
	茨城県高等学校総合文化祭美術展覧会【書道の部】	
出品	舟橋美玖(3-4) 真崎杏奈(2-2) 堤 友佳(1-2) 錦野航平(1-4) 井坂彩夢(1-4)	
日本大学等付属高等学校日大文芸コンクール		
	【俳句の部】 特選	石島彩羽(1-2)

活躍する卒業生

「日々挑戦」

私は生物が得意科目だったので、生物学が学べる大学に入り学問を学びました。学問を学ぶうちに研究に興味をもち、大学院に入って2年間研究に没頭していました。現在は、製薬関係の会社に入り、その中で研究員の一人として働くことで社会に貢献しています。

こういった人生に巡り合えたのも高校時代という経験があったからこそだと思います。苦しいときもありましたが、それ以上に楽しかった出来事がこれまでの人生の支えとなり、自分なりにステップアップできました。若いうちはまだ見えていないものが多く、将来について不安を抱く機会がありました。現在も自身の人生をより良いものにするため日々精進を続けているつもりですが、果たしてその行いが良いのか悪いのかはその時に分らないものが多いです。ただ私の信念である”失敗は成功するまでの過程の一つに過ぎない”という思いを胸に、日々積極的に挑戦し続けています。悩むことは一生の付きものですが、それは成長のチャンスでもあります。目の前にある壁から目を背けず、しっかり向き合ってください。

おおさわ りょうこ
 ■大澤 諒子

1995年 茨城県筑西市生まれ
 2010年 筑西市立明野中学校卒業
 2013年 岩瀬日本大学高等学校卒業
 2017年 日本大学国際関係学部卒業



昨年10月、担任だった金坂先生と笠倉先生とケアンズで再会

やなか りゅうのすけ
 ■谷中 竜之介

1994年 茨城県桜川市生まれ
 2010年 桜川市立岩瀬東中学校卒業
 2013年 岩瀬日本大学高等学校卒業
 2017年 北里大学海洋生命科学部海洋生命科学科 卒業
 2019年 北里大学大学院医療系研究科医科学専攻卒業
 趣味：バイク 特技：料理



高校時代はサッカー部に所属



「夢に挑戦を」

修学旅行でシドニーを訪れ、ファームステイをしたことが海外に住んでみたいと思うきっかけでした。大学1年で1ヶ月間の短期留学をし、自分の伝えたいことや表現したいものが相手に伝わる達成感で、さらに海外への憧れが強くなりました。社会人1年目、ワーキングホリデーへの気持ちが諦めきれず、様々な不安はありながらも後悔しないように挑戦しました。この経験から、皆さんには少しでも興味があること、やってみたいと思うことがあるならば時には先のことを考え込むのではなく1度挑戦したほうが良いのではないかと思います。

現在オーストラリアでの念願のワーキングホリデー生活をしています。日々シェアメイトと交流を深め、職場では様々な目的を持って集まってきた人と会話を楽しみながら毎日を過ごしています。もちろん辛いこともたくさんありますが、その時こそ、的確に自分の意見と状況を相手に伝えないといけない為いつも以上に英語力が必要になります。しかし、辛いことも前向きにトレーニングだと考えることで、自分を奮い立たせるようにしています。皆さんも、挑戦する気持ちで前向きに物事を捉え、素敵な高校生活を送ってください。

令和元年度3年生合格先区分別概況

*合格数は令和2年1月7日までの結果です。

1 国公立大学等 合格者数 3名

大学名	合格数	大学名	合格数
宇都宮大学	2名	防衛大学校	1名

2 日本大学 合格者数 96名

学部名	合格数	学部名	合格数	学部名	合格数	学部名	合格数
法学部	12名	文理学部	13名	経済学部	5名	商学部	12名
国際関係学部	6名	危機管理学部	3名	理工学部	12名	生産工学部	10名
工学部	11名	松戸歯学部	1名	生物資源科学部	7名	薬学部	1名
短期大学部	3名						

3 私立大学 合格者数 28名

大学名	合格数	大学名	合格数	大学名	合格数	大学名	合格数
青山学院大学	1名	朝日大学	1名	宇都宮共和大学	1名	桜美林大学	1名
国際医療福祉大学	2名	実践女子大学	1名	城西大学	1名	城西国際大学	1名
洗足学園音楽大学	1名	中央学院大学	1名	つば国際大学	3名	帝京大学	1名
帝京平成大学	1名	東洋大学	1名	常磐大学	3名	獨協医科大学	1名
日本赤十字看護大学	1名	白鷗大学	1名	立正大学	1名	流通経済大学	1名

4 私立短期大学 合格者数 7名

大学名	合格数	大学名	合格数	大学名	合格数	大学名	合格数
國學院大學栃木短期大学	1名	佐野日本大学短期大学	2名	聖徳大学短期大学部	1名	つば国際短期大学	1名
帝京短期大学	1名	常磐短期大学	2名				

5 専門学校等 合格者数 15名

学校名	合格数	学校名	合格数	学校名	合格数	学校名	合格数
宇都宮メディア・アーツ専門学校	1名	宇都宮歯科衛生士専門学校	1名	EIKA美容専門学校	2名	大原簿記情報公務員専門学校(水戸校)	1名
大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校(宇都宮校)	2名	呉竹医療専門学校	1名	国際ティビシィ看護専門学校	1名	筑波研究学園専門学校	1名
つば歯科衛生看護専門学校	1名	東京観光専門学校	1名	マロニエ医療福祉専門学校	2名	日産栃木自動車大学校	1名

6 就職 合格者数 3名

就職先名	合格数	就職先名	合格数
株式会社正栄デリシイ	1名	自衛隊	2名

進路指導部より

進路指導部主任

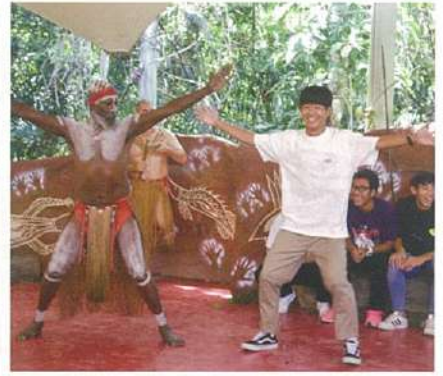
時杉 博人

日本大学への付属推薦入試で合格した生徒は96名(1月29日現在)で、在籍生徒数の割合でいえば、過去3年間で最高の結果を残してくれました。また、昨年よりも9月の基礎学力到達度テストで好成績を残せたこともあり、多くの生徒が第一志望もしくは第二志望の学部・学科に合格することができました。

一方、国公立大学等推薦入試にも積極的に挑戦し、宇都宮大学2名、防衛大学校1名の計3名の生徒が見事に合格を勝ち取りました。

1月18、19日に国立コース3年28名は、筑波大学・筑波学院大学でセンター試験を受験しました。これから自己採点の結果をもとに、国公立大学への出願を済ませ、2月1日の日本大学一般入試(N方式)を皮切りに、一般入試へのチャレンジが続きます。受験生が体調に留意し、十分に実力が発揮できるように、保護者の皆様のご協力をお願いいたします。

3月の国公立大後期入試まで一生懸命頑張る生徒を、教員一同全力で応援していきます。



全2学年 オーストラリア修学旅行



編集後記

「桜真49号をお届けします。10月に各地に甚大な被害をもたらした台風19号の影響が心配される中、1年生は蓼科宿泊学習、2年生は修学旅行へ無事に出発することができました。蓼科宿泊学習では、沢山の方々から様々なお話を聞き、この先に待ち構えている文理選択と進路を考えるきっかけが得られたことと思います。

オーストラリア修学旅行では、2年生が1人も欠けることなく、ファームステイや見学体験を通じて文化の違いを理解し、コミュニケーションの重要性を理解する有意義な経験ができたのではないのでしょうか。

3年生においては、部活動引退から受験を迎え、あつという間に卒業を迎えます。岩瀬日大で学んだことや、仲間や先生方と苦難を乗り越えたことを糧にして、素敵な人生を送っていただけるようお祈りいたします。ご卒業おめでとうございます。

発行にあたり、ご寄稿いただきました皆様には、ご協力深く感謝いたします。

広報委員長 齋藤 真理子
(桜川支部)